

令和3年度 自己点検・評価書

令和4年10月

佐賀大学

肥前セラミック研究センター

I 現況及び特徴

佐賀大学はCOC (Center of Community) として地域貢献を推進する大学を目指し、次の100年を担う窯業人材育成のため、平成25年に佐賀県と協力協定を結んだ。その後、平成28年4月に芸術地域デザイン学部を設置し、佐賀県立有田窯業大学校を統合し、佐賀大学有田キャンパスを発足すると同時に、肥前窯業圏の研究を中心とした地域貢献を目的とした肥前セラミック研究センターを設置した。

このような背景と現在の地域状況を考慮し、佐賀大学の基本的な役割は、肥前窯業の持続性を支える研究と教育であるということを再認識し、本学で平成28年12月に策定された中期計画カルテとアクションプランに基づき、肥前セラミック研究センターの設置に伴う機能強化経費等プロジェクト実行経費事業「やきものイノベーションによる地域共創プロジェクト」の推進強化を行った。

肥前セラミック研究センターは、プロダクトデザイン・アート研究部門、セラミックサイエンス研究部門、マネジメント研究部門の3つの研究部門から構成され、平成3年度には、それぞれ、5名、11名、5名の教職員が在籍している。そのうち、3名(特任教授(非常勤)、准教授、助教)が専任教員、15名が併任教員であり、残り3名が協力教員である。さらに、6名の客員研究員(学外5名、本学名誉教授1名)が在籍している。

【根拠資料1】 肥前セラミック研究センター 活動報告書 令和3年度版
(http://www.hizen-cera.crc.saga-u.ac.jp/pdf/R3_report.pdf)

II 目的

肥前セラミック研究センターは、肥前陶磁の伝統的技術・工芸とファインセラミックスの先進技術要素を組み合わせた「やきものイノベーション」により、佐賀大学の研究教育活動及び学内外との学術交流の促進を図り、併せて地域社会及び国際社会の持続的発展に資することを目的とする。

【根拠資料1】 肥前セラミック研究センター 活動報告書 令和3年度版
(http://www.hizen-cera.crc.saga-u.ac.jp/pdf/R3_report.pdf)

【根拠資料2】 佐賀大学肥前セラミック研究センター規則

Ⅲ－Ⅰ 教育に関する状況と自己評価

(1) 学部生、大学院生への教育

肥前セラミック研究センターの研究に関連して、学部生 30 名と大学院生 12 名に陶磁器・セラミックスに関連する研究指導（卒業論文研究、修士論文研究）を行った。

特任教授が全学教育機構のインターフェース科目の「未来を拓く材料の科学Ⅱ」において陶磁器のサイエンスに関する講義を行った。

また、センターを主体とした開講科目ではないが、各教員が所属する学部や全学教育機構において陶磁器・セラミックスに関連する多数の講義を行い、学内での陶磁器・セラミックスの教育に貢献している。

(2) 研究成果の教育への反映

センターの研究成果を大学教育に反映させることを目的とし、センターの研究成果を芸術地域デザイン学部の学生に知ってもらって将来の作品制作に活かしてもらうために、芸術地域デザイン学部で開講の「陶磁マーケティング」と「アートマーケティング」の講義において、セラミックサイエンス研究部門で開発した新素材に関する講義を併任教員が行い、専任准教授がアートやマネジメントに関する講義を行った。

(3) 「肥前セラミック学」開講準備

令和 4 年度からの開講を目標として、学部生を対象とした全学教育機構の全学教育科目（基本教養科目（自然科学と技術の分野））「肥前セラミック学」の開講を決め、授業計画を決定した。授業内容は、本庄キャンパスでの陶磁器に関する講義やセラミックスに関する化学実験とともに、有田キャンパスでの陶磁器の制作体験や、有田町をフィールドワークも含んだものとなっており、3 研究部門の特徴を生かしたセンターならではの講義となる予定である。

(4) 陶磁器アイデアコンテストの実施

本学と肥前窯業圏との連携による「やきものイノベーション」を行うべく、大学教育の一環として、山口夕妃子教授と成田貴行准教授が開講する講義（「アートマーケティング」と「未来を拓く材料の科学Ⅳ」）をベースとして「陶磁器アイデアコンテスト」を実施した。

募集テーマは、「1. 陶磁器で SDGs に貢献する」と「2. コロナ禍で佐賀に帰って来られない方へ ～佐賀を感じる陶磁器～」とした。

応募総数 93 件から一次選考（令和 4 年 1 月 5 日）で選ばれた 10 件について最終審査及び表彰（令和 4 年 1 月 22 日）を行った。なお、審査には、有田町長松尾佳昭様、佐賀県陶磁器工業協同組合理事長原田元様、肥前陶磁器商工協同組合理事長百田憲由様にも加わってもらい、地域との協働活動を実施することができた。

(5) 有田キャンパス公開講座への協力

佐賀大学 芸術地域デザイン学部で肥前地区の住民を対象とした有田キャンパス公開講座において、センターの専任准教授と併任准教授と専任助教が講義を行った。（2021. 10. 5、10. 19、11. 16）

(6) 研修会「環境浄化技術～光触媒」の開催

福岡県立福岡工業高校環境化学科1年生を対象として専任特任教授が光触媒に関する講義を有田キャンパスで行った。参加者43名。(2021.11.24)

(7) キャリア教育支援事業「ファインセラミックスについてーセラミックスってどんな材料?ー やきものとファインセラミックスの違い?ー」の実施

佐賀県立有田工業高等学校の学生を対象として、併任教員がファインセラミックスとは何かを理解してもらうことを目的とした講義を行った。受講者37名。(2021.12.6)

(8) 地域経済の課題解決に取り組むR (Region)プロジェクト大会参加

研究連携協定を締結している甲南大学を主催として、当センターは共催として参画し、本学学生や他大学学生が参加し、地域経済の課題解決に取り組むとともに交流を行った。参加者60名(2021.8.7)

【根拠資料】 肥前セラミック研究センター 活動報告書 令和3年度版
(http://www.hizen-cera.crc.saga-u.ac.jp/pdf/R3_report.pdf)

【自己評価】

芸術地域デザイン学部、経済学部、理工学部、理工学研究科、全学教育機構等との連携においてセンターの研究に関連する学生指導を通して教育に貢献しており、評価に値する。今後も学部・研究科との連携を深めて教育に貢献する。前年度に続き、コロナ禍においても、本学学生以外の地域住民や高校生に対して、公開講座等を通して、センターの研究領域に基づく教育や地域貢献の観点からの教育支援を実施できたことも評価すべきである。

前年度の自己点検・評価書に、今後の教育活動に関する改善点として、「異分野融合型のセンターの特徴を生かしたさらなる大学教育への貢献を考えて実行する必要がある」と記載したが、これらの改善を達成するために、(2)、(3)、(4)を実施し、大学の教育活動に貢献した。(3)の「肥前セラミック学」に関しては、令和4年度前期に、作成したシラバスに従って講義を実施した上で、問題点を洗い出してさらなる改善に努める必要がある。また、(4)のアイデアコンテストについても、ご協力いただいた有田の窯業関係者の意見を聴取し、地域の想いや考えを反映した行事へと改善を進めたい。

まとめ

○優れた点

- ・研究成果の教育(講義)への反映、アイデアコンテストの実施、新科目の開設準備を通して、異分野融合型のセンターの特徴を生かした大学教育への貢献ができた。
- ・本学学生以外の地域住民や高校生に対して、公開講座等を通して、センターの研究領域に基づく教育や地域貢献の観点からの教育支援を行った。

○改善を要する事項及び改善状況

改善を要する事項	改善計画・改善状況	進捗状況
<p>・「肥前セラミック学」の開講で明らかとなった問題点の共有と改善が必要。</p> <p>・アイデアコンテストの地域の窯業関係者の意見を取り入れた改善が必要。</p>	<p>異分野融合型のセンターの特徴を生かした大学教育への貢献が必要とされていたが、研究成果の講義への反映、アイデアコンテストの実施、新科目の開設準備を通して、改善できた。</p>	<p><input type="checkbox"/> 検討中</p> <p><input type="checkbox"/> 対応中</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 対応済</p> <p><input type="checkbox"/> その他</p> <p>()</p>

IV－I 研究に関する状況と自己評価

(1) 研究成果の概要

学術発表 44 件（学会発表や学術講演等）

学術論文等掲載 17 件（著書、論文、解説等）

プロトタイプ発表 34 件（教員の外部発表作品及び指導学生と有田陶交会との協働試作品）

共同研究・受託研究・秘密保持契約等 5 件（企業 4 件、自治体 1 件）

地域連携協定 1 件（H29～九州陶磁文化館、佐賀県窯業技術センター、芸術地域デザイン学部）

国際研究交流協定 1 件（H30～韓国窯業技術院 Icheon 分院）

研究連携協定 1 件（H30～甲南大学ビジネス・イノベーション研究所）

(2) 各教員の研究課題及び共同研究相手

次ページに、研究課題等の一覧表を示す。プロダクトデザイン・アート研究部門で 9 テーマ、セラミックサイエンス研究部門で 19 テーマ、マネジメント研究部門で 7 テーマの研究が実施され、佐賀県窯業技術センター、有田工業高等学校、有田町歴史民俗資料館、泉山磁石場組合、長崎県立大学、地元企業等の肥前地区の窯業関連機関とともに、景德鎮陶磁大学、甲南大学、原子力研究開発機構、民間企業等との協働での研究活動を行った。研究テーマの多くは肥前地区の窯業関係機関とともに行われており、地域に密着した研究が実施されていることがわかる。

表 各教員の研究テーマ一覧表

部門	教員	研究課題	共同研究相手
プロダクトデザイン・アート研究部門	田中	焼成時無収縮磁器土による成形法開発と造形表現への応用／重点研究	佐賀県窯業技術センター
	本田	有田町における新しい図書サービスの実践的研究	
	本田	岳の棚田における交流人口増加を目的としたイベント開催のあり方の実践的研究	佐賀県立有田工業高等学校
	本田	窯業（有田焼）と芸術分野（いけばな草月流）のコラボレーションによる新たな芸術表現の創出と新規市場参入の取組における実践的研究	企業 1 社
	本田	学校給食用食器市場に関する調査研究	
	三木	3D デジタルデザインツールを用いた陶磁器製品開発／重点研究	企業 1 社
	三木	石膏型成型技法研究	
	湯之原	異素材を利用した陶磁器表現の研究	佐賀県窯業技術センター
	甲斐	焼成無収縮陶土の手造り（ロクロ等）による利活用の研究／重点研究	
セラミックサイエンス研究部門	矢田・一ノ瀬	完全無収縮陶磁器の開発／重点研究	佐賀県窯業技術センター
	一ノ瀬・矢田	陶磁器成形技術の開発と応用／重点研究	企業 1 社
	一ノ瀬・矢田	ペルオキシチタン錯体の応用研究	企業 2 社
	矢田	高機能多孔質担体の開発	企業 1 社
	近藤	泉山粘土と天草粘土の物理・化学性および可塑性の比較検討	佐賀県窯業技術センター 企業 1 社
	海野	近赤外ルミネッセンスを用いた釉薬の新規分析技術の開発	佐賀県窯業技術センター 有田町歴史民俗資料館
	赤津・HAO	強化磁器の強化メカニズムの解明と新規強度設計	佐賀県窯業技術センター
	赤津・HAO	焼成変形しにくい磁器素地の開発	佐賀県窯業技術センター
	赤津・HAO	磁器素地の焼成収縮抑制メカニズムの解明	佐賀県窯業技術センター
	川喜田	磁性粒子含有ゲル層を用いた微細藻類の分離	
川喜田	ゲル層の弾性を利用したセラミックス粒子の分離		

部門	教員	研究課題	共同研究相手
セラミックサイエンス研究部門	川喜田	泉山陶石の有効利用に関する研究	佐賀県窯業技術センター 泉山磁石場組合 企業1社
	成田・磯野 矢田・一ノ瀬	有機無機ハイブリッド陶磁器／重点研究	佐賀県窯業技術センター
	根上	陶磁器廃材・廃素焼き片・廃石膏型枠の有効利用に関する研究	
	磯野	セラミック系電極材料の開発	
	三沢・赤津・ HAO	IH（誘導加熱）に対応する有田磁器製の病院・介護施設給食用食器の開発	企業1社
	三沢	FEMによるSPS温度分布評価	文部科学省国家課題対応型研究開発推進事業「原子力システム研究開発事業」採択課題 「3D造形革新燃料製造のシミュレーション基盤技術」サブテーマ
	三沢	放電プラズマ焼結による原子炉燃料製造プロセスシミュレーションの研究	原子力研究開発機構 企業1社
	HAO	新機能セラミックス材料の創製	佐賀県窯業技術センター 景德镇陶瓷大学
マネジメント研究部門	山口	陶磁器に関する消費者行動調査・研究	長崎県立大学
	山口	地域創生マーケティングに関する研究	甲南大学
	有馬	統計データをもちいた有田町訪問者の特性	
	山本	肥前陶磁器業の歴史研究	
	栗林	有田町における戦後農業の展開に関する研究	
	洪	地域資源を活用したブランド化とその効果に関する研究	
	洪	グローバル化に向けた地域ブランド育成方法と政策的課題	
客員研究員	蒲地	強化磁器、高精度磁器等の新規機能性陶磁器の開発	
	白石	陶磁器用加飾材料の開発	
	副島	3Dデジタル技術を利用した陶磁器製造技術の高度化	
	浜野	肥前窯業圏における事業化デザインに関する研究	
	田端	シンクロトロン光を用いる陶磁器の化学組成と産地推定法の研究およびアスベストの簡易検出法の開発	
	山田	肥前陶磁器業の経営発展と企業者活動に関する歴史研究	

【根拠資料】 肥前セラミック研究センター 活動報告書 令和3年度版
(http://www.hizen-cera.crc.saga-u.ac.jp/pdf/R3_report.pdf)

【自己評価】

令和3年度は、学術発表件数は昨年の39件から44件に微増し、目標値である25件も超え、順調に学術発表ができたと思われる。学術論文等掲載は昨年の18件とほぼ同様の17件であり、目標値である10報を超えており、研究成果が着実にあがっていることを示している。プロトタイプ発表は昨年の32件とほぼ同様の34件が発表されており、目標の33件を超えた。

また、研究の質の観点では、プロダクトデザイン・アート研究部門による東京の草月会館で発表したARITA×SOGETSUプロジェクト（有田焼といけばな草月流による協働での花器制作）は大変好評であり、2021.5.19-5.24に博多阪急で開催された「草月いけばな展」でも制作した作品が展示され、セラミックサイエンス研究部門からは「新型コロナ不活性化を確認 佐大教授らコーティング剤開発」とのタイトルで研究成果が佐賀新聞（2021.8.11）で紹介され、マネジメント研究部門からは令和3年度末に刊行した「肥前窯業圏における陶磁器に関する消費者意識調査報告書」の内容が朝日新聞（2022.4.28）にて紹介されたりするなど、研究成果の質の向上による評価の高まりも見られる。

また、前年の自己点検・評価書には、部門間の連携を密にして新しい研究成果を出していくことが望まれると記載したが、新素材の作品への応用に関するFD研修会の開催を通して、学生の卒業研究作品（自硬鋳込み技術を用いた陶磁器性立体QRコード）として発表することができた。今後も、異分野融合領域のセンターの特徴を生かした研究活動を続けていく必要がある。

まとめ

○優れた点・特色ある点

- ・地域と連携した多くの研究が実施されている。
- ・質の高い研究成果が出てきつつあり、東京での展覧会等（ARITA×SOGETSUプロジェクト）の開催や、新聞報道（「新型コロナ不活性化を確認 佐大教授らコーティング剤開発」（佐賀新聞）、「肥前窯業圏における陶磁器に関する消費者意識調査報告書」（朝日新聞））などの高評価にもつながっている。

○改善を要する事項及び改善状況

改善を要する事項	改善計画・改善状況	進捗状況
異分野融合領域のセンターの特徴を生かした研究活動を続けていく必要がある。	部門間の連携を密にして新しい研究成果を出すことが望まれていたが、FD研修会の開催を通して、融合領域研究センターの特長を生かした作品を研究成果として創出でき、改善できた。	<input type="checkbox"/> 検討中 <input type="checkbox"/> 対応中 <input checked="" type="checkbox"/> 対応済 <input type="checkbox"/> その他 ()

V-I 国際交流及び社会連携・貢献に関する状況と自己評価

(1) 国際交流

国際交流に関して、以下の8項目の協議や研究成果発表等を行った。

1. 独立行政法人国際協力機構 (JICA) 「大エジプト博物館合同保存修復プロジェクト」 (GEM-JC) チーム受賞の第27回読売国際協力賞記念有田焼ピンバッジ製作 (2021.1.-9.)
2. 2021 韓国陶磁デザイン協会国際交流展『ぬくもり (温気) の事物』出展 (2021.4.9-7.31)
3. 佐賀大学赤津研究室-景德鎮陶瓷大学李研究室共同研究セミナー (2021.6.11)
4. JSPS 研究者受入予定 Johanna 関連事業
 - ・修士発表会 (2021.4.14)
 - ・JSPS サマー・プログラム オンラインキックオフミーティング (2021.5.11)
5. 国際セミナー
 - ・「伝統磁器の最近の発展」 (2021.7.30)
 - ・「科学と芸術の融合による磁器の美しさ」開催 (2021.12.8)
6. 佐賀県/有田町 Creative Residency in Arita 関連事業
 - ・ダッチデザインウィーク現地レポート (2021.10.21)
 - ・運営委員会 (2021.12.15)
 - ・アーティスト自己紹介プレゼンテーション (2022.2.17)
7. ベツァルエルデザイン美術アカデミー (イスラエル) との交流
 - ・オンライン発表会 (2022.3.1)
 - ・合同交流展『おばあちゃんのカップ』(佐大:2022.3.1~4.15/イスラエル:2022.3.1~31)
8. 国際会議・セミナーでの招待講演・依頼講演 3件

(2) 社会連携・貢献

社会連携活動として、地域協働活動が306回、技術相談・技術指導が121回行われた。また、肥前地区で密接な関連がある佐賀大学芸術地域デザイン学部、九州陶磁文化館、佐賀県窯業技術センターと当センターで四者会議 (2022.3.31) を、芸術地域デザイン学部と肥前地区の窯業関係者と当センターで地域連絡会 (2022.3.31) を開催して意見交換を行った。

社会貢献活動として、以下に示す研究発表会やシンポジウムや講演会等を開催 (主催もしくは共催) した。

① 当センターが開催に大きく関与した研究成果発表会・シンポジウム等、すなわち、センターの研究成果の発表会は6回であり、目標の4回を超えた。

1. 泉山磁石場組合研修会 講演「泉山鉱石の改質:鉄と硫黄成分の洗浄と除去」(2021.8.1)
2. 陶交会×佐賀大学 PROJECT 展示『break!』(2021.9.18-26)
3. ARITA×SOGETSU 有田焼窯元と草月流華道家との新たな試み (作品展示及びギャラリートーク) (2021.12.14-18)

4. 展覧会「小さなお菓子のための器」(2021. 12. 6～2022. 1. 20)
 5. 研究成果報告会「陶片の機器分析に関する研究成果発表」(2021. 11. 22)
 6. 肥前セラミック研究センター研究成果ポスター発表会(2022. 3. 31)
- ② センターが主催・共催となった講演会・セミナー、すなわち、センターからの情報発信活動は5回であり、目標の4回を超えた。
1. 国際セミナー「伝統磁器の最近の発展」(2021. 7. 30) (主催)
 2. CIREn 電気化学研究分科会 第1回講演会(2021. 9. 10) (共催)
 3. 講演会「次の世代のために残したい地域と産業」(2021. 10. 1) (主催)
 4. 国際セミナー「科学と芸術の融合による磁器の美しさ」(2021. 12. 8) (主催)
 5. CIREn 電気化学研究分科会 第2回講演会(2021. 12. 21) (共催)
- ③ センター教員が関与した社会貢献としての学外研究者や学外の学生や地域住民に対する学会・教育・人材育成活動は15件であった。
1. 「れんげ畑であそぼう！@岳の棚田」(地域の幼児参加)(2021. 4. 9)
 2. 日本マーケティング学会サロン「2025年のマーケティング・アジェンダ」(学会)(2021. 5. 24)
 3. 令和3年度ものづくり技術者育成講座 表面工業化学コース(社会人対象)(2021. 8. 19, 8. 23)(※全10コマ中5コマをセンター併任教員が担当)
 4. 日本マーケティング学会リサーチプロジェクト「地域創生における観光・SDGs」(学会)(2021. 8. 20)
 5. 日本マーケティング学会サロン「防災マーケティング：防災・減災における課題解決に向けたマーケティング研究の有用性」(学会)(2021. 9. 28)
 6. 佐賀大学 有田キャンパス公開講座(有田町民対象)(2021. 10. 5、10. 19、11. 16)
 7. 公開講座「ガラスの機械的性質」(社会人対象)(2021. 10. 14)
 8. 地域創生マーケティング研究会「地域創生と共創価値」(学会)(2021. 10. 17)
 9. 「ARITA×SOGETSU 有田焼窯元と草月流華道家との新たな試み」いけばな体験教室(本学学生参加)(2021. 10. 30)
 10. 「ひまわり迷路！@岳の棚田」(幼児、有田工業高校生参加)(2021. 11. 4-11. 30)
 11. 研修会「環境浄化技術～光触媒」(福岡工業高校生対象)(2021. 11. 24)
 12. キャリア支援事業「ファインセラミックスについて-セラミックスってどんな材料？-やきものとファインセラミックスのちがいは？」(有田工業高校生対象)(2021. 12. 6)
 13. 日本マーケティング学会サロン「バーチャル YouTuber のビジネス市場創造」(学会)(2021. 12. 22)
 14. 講演「インフラ構造物の維持管理技術と窯業産業廃棄物の有効利用」(学会)(2021. 12. 23)
 15. 日本マーケティング学会リサーチプロジェクト「地域創生における中核企業のビジョンと戦略」(学会)(2022. 3. 19)

【根拠資料】 肥前セラミック研究センター 活動報告書 令和3年度版
(http://www.hizen-cera.crc.saga-u.ac.jp/pdf/R3_report.pdf)

【自己評価】

国際交流に関しては、令和2年度の5項目から令和3年度には8項目に増加しており、活動の活性化が認められる。これらの活動の多くは有田キャンパスの教員によって行われており、有田キャンパスの国際化や将来の地域活性化への貢献を考えるとよいことだと考える。前年度の自己点検・評価書において、改善を要する点として、センター主催の国際セミナー開催等の主体的な活動が望まれると記載したが、令和3年度は外国籍の専任助教を中心として2回の国際セミナーを開催することができた。専任助教はセラミックサイエンス研究部門所属であるが、センター長と協議して国際セミナーの内容はサイエンスの内容（第1回目）にとどまらずアートの内容（第2回目）でも行ってもらい、専任教員の能力・人脈を全部門で活用することを心がけた。次年度は、マネジメントに関連する内容でも国際セミナーを行うことを計画している。また、研究成果の発信として令和4年度にマネジメント研究部門での国際シンポジウムを開催予定でる。

社会連携・貢献に関しては、地域協働活動が一昨年度の86回、昨年度の211回から令和3年度には306回へと大幅に増加したことは特筆すべきことである。これは、令和2年度に着任したプロダクトデザイン・アート研究部門の専任准教授の活動によるところが非常に大きく、着任して2年目で非常に多くの窯業関係者と密接な関係を築き、地域に根差した活動を行っていることが示されている。また、306回の中には、37回の地域で開催された会議等への参加が含まれており、地域の様々な活動に参画できていることがわかる。また、四者会議と地域連絡会（2022.3.31）を通して、センターの活動に対する意見を伺い、次年度の活動に反映している。例えば、九州陶磁文化館で開催した「陶片の機器分析に関する研究成果発表」（2021.11.22）は、前年の四者会議での九州陶磁文化館からの意見もとに開催したものであり、今後もこれらの会議でてくる意見や要望を取り入れてセンターの活動を改善していきたい。

技術相談・技術指導は昨年度の105件から令和3年度は121件へと増加している。これは、専任の特任教授の活動が中心となったものであり、前任の佐賀県窯業技術センター時代から継続して行っている研究に基づくものとなっている。

以上のように、地域に密着した活動としての地域協働活動や技術相談・技術指導は有田キャンパスの専任教員が担ってくれており、地域と大学を結ぶ重要な役割を果たしているといえる。

また、社会連携・貢献に関する行事は、①と②で11件、③で15件であり、当初の目標（①と②がそれぞれ4回）を超えて昨年度の計7件よりも非常に多くなっており、これに③の活動を加えると、非常に活発なセンターからの研究成果や新しい情報の提供活動が展開されて優れていると思われる。その一方で、大学執行部とのヒアリングの中で、広報活動

的なものはもう十分なのでないか、研究センターとしての本分を考えた活動を行うべきではないかとの意見もでている。また、先述の地域連絡会では多くの魅力的な活動がなされているが、それらの活動がうまく地域に伝わっていない面もあるとの指摘も受けている。したがって、過多となった社会連携・貢献活動を精査して本当に必要な活動に注力し、また、広報活動の方法についても改善が必要と考えている。

まとめ

○優れた点

- ・センター主催の国際セミナーを2回開催し、大学や地域の国際化に貢献した。
- ・国際交流件数、地域協働活動回数、技術相談・技術指導件数、社会連携・貢献行事開催数のいずれも増加しており、センターの活動の活性化が認められる。

○改善を要する事項及び改善状況

改善を要する事項	改善計画・改善状況	進捗状況
過多となった社会連携・貢献活動を精査して、本当に必要な活動に注力するとともに、広報活動の方法についても改善が必要である。	国際交流において国際セミナー開催等の主体的な活動が望まれていたが、R3年度は2回の国際セミナーを主催し、改善できた。	<input type="checkbox"/> 検討中 <input type="checkbox"/> 対応中 <input checked="" type="checkbox"/> 対応済 <input type="checkbox"/> その他 ()

VI- I 組織運営・施設・その他部局の重要な取組に関する状況と自己評価

(1) 組織運営

令和2年度に理事（研究・社会連携・国際担当）とセンター長で協議を行って定めたセンター活動方針をもとに、また、令和3年度は令和2年度までに構築した運営組織をもとに活動を行った。2名の部門長には副センター長を兼務してもらい、センター運営の責任の一端を担ってもらった。センターの活動を組織的に管理運営するための会議として「企画会議」を開催した。この企画会議ではセンターの活動や予算執行計画の審議とともにセンターが抱える課題の共有と解決に向けた議論等を行った。企画会議のメンバーは、正・副センター長、専任教員3名、URA1名である。なお、昨年度に参加していた学長補佐1名（オブザーバー）は定年退職したため、今年度は参加していない。この会議は6回開催した。また、人事や評価に関する会議として正・副センター長による会議を2回開催した。また、センターに求められるミッションや今後の活動の方向性をセンター教職員全員で共有するため、全体会議を1回（2022.3.31）、FD・SD研修会を1回（2021.9.22）開催した。

(2) その他部局の重要な取り組み

令和2年度までの活動の改善として、3部門間の連携活動の強化が求められていた。特に

研究における部門間の連携を深めるために、FD 研修会を 3 回開催した。具体的には、センターで開発した新素材の作品への応用のためにセラミックサイエンス研究部門とプロダクトデザイン・アート研究部門との間で 1 回、プロダクトデザイン・アート研究部門とマネジメント研究部門との間で 1 回、マネジメント研究部門とセラミックサイエンス研究部門で 1 回である。

【根拠資料】 肥前セラミック研究センター 活動報告書 令和 3 年度版
http://www.hizen-cera.crc.saga-u.ac.jp/pdf/R3_report.pdf

【自己評価】

令和 3 年度は、プロダクトデザイン・アート研究部門とマネジメント研究部門の部門長が交代し、その結果として副センター長 2 名が交代した。引継ぎ等がうまくいっておらず、企画会議の議事進行が進まず運営に苦慮したことがあったが、今後は、誰がいつ部門長となってもいいように、センター教員全員に対してセンターの活動方針や計画を FD・SD 研修会や全体会議を通して繰り返し示し続けることが重要であると考えている。紆余曲折はありながらも、令和 2 年度に理事とセンター長で協議して拡大役員懇談会（2020.12.9）の場で表明した活動計画は概ね実行できたと思われるが、次年度以降もこれらの活動計画に沿って、また、必要に応じて活動計画を修正しながら、センターの活動を活性化していくことが重要であると考えている。

また、3 研究部門間の連携活動の強化のために FD 研修会を 3 回開催したが、その成果として、セラミックサイエンス研究部門で開発した新素材を利用してプロダクトデザイン・アート研究部門の教員の指導で有田キャンパスの芸術地域デザイン学部 4 年生が卒業研究で作品（自硬鋳込み技術を用いた陶磁器性立体 QR コード）を発表することができた。このような部門連携による研究成果や融合領域研究の成果を今後も発信する努めたい。

まとめ

○優れた点・特色ある点

- ・令和 2 年度の拡大役員懇談会の場で表明した活動計画に沿った活動を実行できた。
- ・3 研究部門の連携活動強化のために 3 回の FD 研修会を実施し、部門連携の研究成果として作品を発表することができた。

○改善を要する事項及び改善状況

改善を要する事項	改善計画・改善状況	進捗状況
センター教員全員に対してセンターの活動方針や計画を FD・SD 研修会や全体会議を通して繰り返し示し続けることが重要である。	—	<input type="checkbox"/> 検討中 <input type="checkbox"/> 対応中 <input type="checkbox"/> 対応済 <input type="checkbox"/> その他 ()

VI-Ⅱ 明らかになった課題等に対する改善の状況又は改善のための方策

改善すべき点1：異分野融合型のセンターの特徴を生かした、さらなる大学教育への貢献を考えて実行する必要がある。(令和2年度 自己点検・評価書)

対応1：「Ⅲ-Ⅰ 教育に関する状況と自己評価」の「(2) 研究成果の教育への反映」、「(3) 「肥前セラミック学」開講準備」、「(4) 陶磁器アイデアコンテストの実施」に記載の通り、異分野融合型のセンターの特徴を生かした教育を実施することができており、改善すべき点を解決している。

改善すべき点2：センターが設立されて4年目になるが、各研究部門がそれぞれ独自に研究を実施しているだけであり、当初に理想・目標としていた「芸術の科学の融合によるやきものイノベーション」、すなわち、3研究部門間の協働でのシナジー効果による新しい研究成果の創出を達成するには至っていないことがあげられる。R3年度は部門間の連携を密にして新しい研究成果を出していくことが望まれる。(令和2年度 自己点検・評価書)

対応2：「Ⅳ-Ⅰ 研究に関する状況と自己評価」の「【自己評価】」の欄等に記載の通り、新素材の作品への応用に関するFD研修会の開催を通して、セラミックサイエンス研究部門の研究成果をプロダクトデザイン・アート研究部門の教員・学生に知ってもらうことで、学生の卒業研究作品(自硬鑄込み技術を用いた陶磁器性立体QRコード)として発表することができ、融合領域研究センターの特長を生かした新しい研究成果を創出でき、改善すべき点は解決した。今後も、センターの特長を生かした研究活動を展開していきたい。

改善すべき点3：改善を要する点としては、センターが設立されて4年目であるがセンターが主体となって開催した国際交流行事がないことである。令和2年度11月に着任した外国籍の助教を中心としたセンター主催の国際セミナー開催等の主体的な活動が望まれる。(令和2年度 自己点検・評価書)

対応3：「Ⅴ-Ⅰ 国際交流及び社会連携・貢献に関する状況と自己評価」の「(1) 国際交流」の欄に記載した2回の国際セミナー(「伝統磁器の最近の発展」(2021.7.30)、「科学と芸術の融合による磁器の美しさ」(2021.12.8))がセンター主催の国際交流行事であり、改善すべき点は解決した。今後も主体的な国際交流活動を継続していきたい。

改善すべき点4：本当にいろんな内容を魅力的なことをいっぱいされていると実感として思っている。しかし、有田にいる我々が知らないというのが問題である。町の体制、我々の意識の問題などあるであろうが、そこがちゃんとできて、これだけの企画が浸透していくとすごくいい状態になる。(有田キャンパス地域連絡会(令和3年3月31日)出席者の意見)

対応4：これまでの行事等の広報は、行事を実施する担当者が考える関連すると思われる関係者に対してピンポイントで行っていたため、必ずしもすべての行事がすべての有田の窯業関係者に広報されていたわけではなく、結果としてこのような意見がでたと思われる。そ

ここで、有田キャンパス連絡会議において有田の窯業関係者のメーリングリストを作ること
を決め、多くの人たちに来てほしい行事に関しては研究部門との関連によらずすべての有
田の窯業関係者に「有田キャンパスからのお知らせ」というメールを送信して広報活動を行
うこととした。また、昨年度に引き続き、センターの令和3年度の活動を詳しくまとめた活
動報告書を作成し、発行部数を増やして窯業関係者に広く配布し、センターの活動を知っ
てもらいたいと考えている。